

2021年度活動概要

言語政策研究会

言語政策 SIG (2000 年発足) は、以下の 2 点を特徴としています。

1. 急速なグローバル化と情報ネットワーク化の中で、少数言語や多言語教育と摺り合わせながら、英語・英語教育を含めた言語現象の問題・矛盾点を客観的に考察していく。また、近未来の言語教育の第三の道や未来予想図を提示していく
2. 担当言語分野 (英語・日本語・第二外国語・ろう教育など) と研究分野 (英語学習者、留学制度、教育政策、教師教育、少数言語話者・移民、機械翻訳など) が多岐にわたる

年間の活動は、オンライン月例会 (第 3 土曜) を開催。前半は専門書の輪読、後半は会員・非会員による言語や教育に関する研究発表と意見交換。4 月は Bich Nguyen (ベトナム国立大) によるベトナムの教師教育について、5 月「現代日本語における外来語の氾濫と定着」 茂木俊伸 (熊本大学)、6 月 P Ferguson (近畿大学) による小学校英語教育の歴史と実践について、9 月「英語イデオロギーの多様性」 森谷祥子 (東大大学院)、10 月「パキスタンの言語政策の変遷と国語教育」 須永恵美子 (東京大学附属図書館アジア研究)、11 月「複言語主義からみる第二外国語教育」 樋口拓也 (立教池袋高)、12 月「私の言語政策研究の原点と軌跡」 田中慎也 (元桜美林大学)、1 月は非英語母語話者を言語資源とする提案を S Perry (早稲田大学大学院) が、2 月は Monica Rodriguez (早稲田大学大学院) が Intercultural Perception of Politeness をスペイン語と日本語を比較して発表しました。

他の研究会との協賛にも以下のように取り組みました。

- ① 7/24、第 220 回東アジア英語教育研究会と共催、 原隆幸 (鹿児島大学) 三村千恵子発表 (宇都宮大学)
- ② 8/28 JACET 第 60 回 JACET 国際大会、杉野俊子 (SIG 代表) ・原 隆幸 (鹿児島大学) ・野沢恵美子 (中央大学)
- ③ 12/4 JAAL in JACET、杉野俊子・原 隆幸 (鹿児島大学) ・波多野一真 (創価大学)
- ④ 2/26 JACET 言語政策 SIG2021 年度年次特別研究会、金沢星稜大学 田中富士美 (金沢星稜大学)、中川洋子 (武蔵野大学)、波多野一真「在日外国人の司法

アクセスと機械翻訳の利用」、野沢恵美子「インド女性の戦略的な教育の利用と地理的・社会的移動」「次期出版について」杉野俊子、柿原武史（関西学院大学）

8月には本研究会の有志（21名）で『「つながる」ための言語教育：アフターコロナのことばと社会』杉野俊子 監修 野沢恵美子/田中富士美 編著（明石書店）で出版しました。新しい視点から「つながる」ための言語教育の現状とそれに必要な将来の言語教育の姿や可能性を示唆しました。来年度も引き続きこのテーマを追求していく予定です。